

2012.9.1



# 医療教育開発センター ニューズレター

徳島大学大学院  
ヘルスバイオサイエンス研究部  
医療教育開発センター

## 1 巻頭言

## 2 副センター長の紹介

## 3 取組紹介

- クリニカルスキルス・ラボを拠点とした国際交流
- 頭脳循環を加速する若手研究者戦略的海外派遣プログラム

## 4 これからの主な取組

# 1 巻頭言



## シミュレーション教育の充実に向けて

医療教育開発センター長 赤池 雅史

医療教育開発センターの活動には、医療系大学院教育（教育クラスター、共通科目e-learning、リトリート等）、職種間連携教育、シミュレーション教育の3つの柱があります。これらのうちシミュレーション教育の拠点であるスキルスラボの改修工事がこの7月から始まりました。これは医学部が獲得した大学教育研究特別整備費「総合的医療シミュレーション教育に対応するための高度医療技術トレーニング設備の整備」によるもので、腹腔鏡下手術、血管インターベンション、超音波検査等の高機能シミュレーターを用いたトレーニングや摘出動物臓器を用いたウエットラボトレーニングへの対応を目的としています。これらの高機能シミュレーターは、解剖学や生理学等の基礎医学と臨床医学の融合学習やチーム医療学習へ活用することも可能です。また、webカメラによる撮影記録装置の設置によるフィードバック指導システムや光ファイバー敷設による遠隔地との合同トレーニングシステムの整備も予定されており、教育環境が飛躍的に向上します。本号の特集で紹介されているように、海外協定校を中心とした医療教育の国際交流の場としての活用もより一層広がることを期待されます。

一方、当センターではこのようなハード面での充実に加えて、平成22年度から模擬患者の新人養成プログラムを立ち上げ、その育成強化にも努めてきました。現在は22名の模擬患者が登録され、コミュニケーション教育に参加していただいています。最近の医療教育では社会の視点を積極的に取り入れるために、地域社会の方の教育への協力の重要性が指摘されています。これは大学の教育目標と密接に連携して推進されることが不可欠であり、医療系の教育研究機関が集約している蔵本地区の特色を生かして、各学部学科が必要としている多彩な教育プログラムに対応できる模擬患者の育成をはかりたいと考えております。

現在、大学教育においては、グローバル化や少子高齢化等、将来の予測が困難な時代にそれを切り開く人材を育成するために、専門的な知識・技能に加えて、コミュニケーション・スキル、チームワーク力、リーダーシップ力、論理的思考力、問題解決力等の汎用性の高い能力をいかにして身に付けるかということが模索されており、様々な視点から知恵を出し合うことが求められています。徳島大学スキルスラボは、医療系の学部・大学院の共通・連携教育支援を担当する当センターがその運営・管理を行っており、このような体制は全国的にも非常に特色のあるものです。当センターではこのような環境を活用して、新しいスキルスラボが単純な技術トレーニングのみに利用されるのではなく、専門性と汎用性の両方に繋がる一歩進んだ総合的シミュレーション教育の場として活用されるよう、努力してまいりたいと思います。今後とも、皆様のご指導・ご鞭撻を何卒よろしくお願い申し上げます。

現在、大学教育においては、グローバル化や少子高齢化等、将来の予測が困難な時代にそれを切り開く人材を育成するために、専門的な知識・技能に加えて、コミュニケーション・スキル、チームワーク力、リーダーシップ力、論理的思考力、問題解決力等の汎用性の高い能力をいかにして身に付けるかということが模索されており、様々な視点から知恵を出し合うことが求められています。徳島大学スキルスラボは、医療系の学部・大学院の共通・連携教育支援を担当する当センターがその運営・管理を行っており、このような体制は全国的にも非常に特色のあるものです。当センターではこのような環境を活用して、新しいスキルスラボが単純な技術トレーニングのみに利用されるのではなく、専門性と汎用性の両方に繋がる一歩進んだ総合的シミュレーション教育の場として活用されるよう、努力してまいりたいと思います。今後とも、皆様のご指導・ご鞭撻を何卒よろしくお願い申し上げます。

## 2 副センター長の紹介 ●●●

### 岩田 貴(医療教育開発センター専任准教授)

全国的にもシミュレーターや模擬患者を活用した実習が盛んになりつつあります。このような中で、徳島大学スキルス・ラボの利用件数が例年右肩上がりであることは大変喜ばしいことです。比較的早期にこのような実習を開始した当センターでは、次のステップとしていかに実習を充実させていくかに思いを巡らせています。「より臨床的な場面設定」に基づいたシミュレーション実習コンテンツの充実を図るとともに、昨年からの急激に増えてきた海外からの視察・実技実習に対応すべく英語テキストの作成や実技指導に磨きをかけて「国際スキルス・ラボ」への準備を進めています。将来はこれら新しい試みをまとめ、全国へ発信する予定です。



### 永田俊彦(口腔科学教育部教授)

昨年度に引き続き、歯学部および口腔科学教育部の代表として副センター長を務めることになりました。人と人がじかに接する医療現場においては、これまで以上にコミュニケーション能力が求められる時代になり、社会との接点の少ない学生を訓練する場として医療教育開発センターの存在意義がますます重要になってくるものと感じております。研究面においては、現在の徳島大学の研究レベルを維持し一層活性化するために、若手研究者の育成が優先課題であると認識しています。蔵本キャンパスでの医・歯・薬・栄養・保健の壁を越えた横断的な研究体制を整備することで、共同研究が推進され、その結果として各教育部から世界で活躍する研究者が輩出されることを期待しております。



### 土屋浩一郎(薬科学教育部教授)

昨年度より副センター長として医療教育開発センターの活動に参加してまいりました。医療教育開発センターは蔵本キャンパスにおける組織横断的な医療人育成教育の場を提供していますが、薬学部では医療教育開発センターを通じ1年生への早期体験実習、4年生の実務実習事前学習・OSCEへの参加、5年生の病院実習でのIPE導入等に取り組んでいます。大学院教育では平成24年度から薬学専攻博士課程と創薬科学専攻博士後期課程で募集を開始しました。特に薬学専攻では臨床に根ざした臨床薬剤師、専門薬剤師、そしてレギュラトリーサイエンスに精通した医療薬学研究者を養成することを掲げていることから、今後医療教育開発センターおよび他の教育部と協力しながら最適な教育・研究システムの構築に結びつけたいと考えています。



### 高橋 章(栄養生命科学教育部教授)

栄養生命科学教育部の代表として医療教育開発センターの副センター長のメンバーとなりました。よろしくお願いたします。

栄養生命科学教育部は、臨床に強い栄養学教育を掲げ、栄養に関する臨床教育を中心に行う新分野の設立を含めて改革を行っています。臨床実習を豊富に取り入れた教育システムを目指しており、生命科学系の各教育部が蔵本地区に集中している徳島大学だからこそ行えることであり、日本では他に類を見ない試みです。このため他の教育部とこれまで以上に密接な連携体制を構築していくことが重要で、医療教育開発センターを中心とした活動に積極的に関わっていきたくと考えています。



### 近藤和也(保健科学教育部教授)

保健科学教育部は、博士前期課程および後期課程が設置され、それぞれ6年および4年が経過し、4名の保健学博士号を輩出しました。さらに、昨年より博士前期課程に助産実践コースが設置され、がん専門看護師コース、養護教諭専修免許取得コース、医学物理士コース、超音波検査技師コースなどの医療に従事する高度専門職業人を育成するため、教育環境が整ってきています。この流れをさらに加速するため、大学病院との密な連携が必要になってきています。「医療現場で直接役立つ医療教育』をというスローガンのもと設置された医療教育開発センターは、この流れを推進するうえで大切な組織です。他の4研究部とともに、医療教育開発センターを発展させ、保健科学教育部を充実させて参ります。





### 3 取組紹介 ●●●

#### ■ クリニカル スキルス・ラボを拠点とした国際交流





2012年2月、5月  
ヘルシンキ・メトロポリア応用科学大学





2011年5月モンゴル健康科学大学

2011年7月ソウル国立大学



2012年4月エチオピア・ゴンダール大学



#### ◆モンゴル健康科学大学

2011年5月8日(日)にモンゴル健康科学大学医学部2年、4年生7名がスキルス・ラボ体験実習を行いました。モンゴルではシミュレーター教育は発達段階なため、心音、呼吸音聴診、採血、縫合シミュレーター、病棟手洗いチェッカーを使った体験実習に目を輝かせて没頭するモンゴル学生諸兄諸姉の姿に、今後のスキルス・ラボの国際協力への可能性と手応えを感じました。

#### ◆ソウル国立大学

2011年7月19日(火)にソウル国立大学医学部6年生6名のスキルス・ラボ実習を開催しました。韓国では国家試験に技能試験(OSCE)が組み込まれているために、シミュレーターを使った実習が盛んで、操作に習熟していたので、研修医を対象に行なっている超音波ガイド下内頸静脈挿入実習を行いました。大変習熟が早く、彼らの器用さには目を見張るばかりで、全員が予定していた時間よりも短時間で手技を完遂させました。

#### ◆ヘルシンキ・メトロポリア応用科学大学

2012年2月24日(金)、5月14日(月)に、ヘルシンキ・メトロポリア応用科学大学看護学専攻3名が保健学科に交換留学生として来学しスキルス・ラボで採血、聴診、導尿、手洗い実習を行いフィンランドとの違いなどをディスカッションしました。

「採血・聴診」については知識、経験があったようですが、日本の翼状針採血や、外筒が血管内に挿入後に針が格納される留置針は経験がなく、安全性に十分配慮した日本の手順に感心していました。

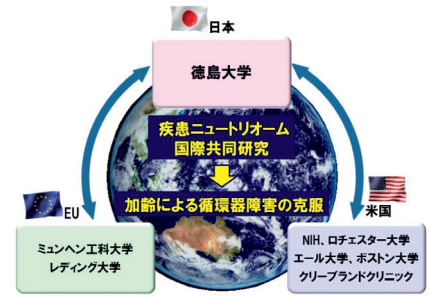
#### ◆エチオピア・ゴンダール大学

2012年4月5日(木)エチオピア・ゴンダール大学の3名の医師が本学蔵本キャンパス視察の一環として、当開発センターを視察され、シミュレーターを体験実習しました。ちょうどこの日は新人研修医オリエンテーションで採血実習を行っており、そこに特別参加してシミュレーターを使つての採血、イチロー、ラングでの聴診、手洗いシミュレーターでの手洗いチェック、腹腔鏡トレーニングボックスの体験実習を行いました。

■**頭脳循環を加速する若手研究者戦略的海外派遣プログラム**

「疾患ニュートリウムを基盤とした加齢による循環器障害研究の国際ネットワーク構築」報告

文部科学省若手研究者戦略的海外派遣事業費補助金である頭脳循環を加速する若手研究者戦略的海外派遣プログラム『疾患ニュートリウムを基盤とした加齢による循環器障害研究の国際ネットワーク構築』（平成23～25年度）による国際共同研究の一環で 7名の若手研究員が海外の研究機関へ派遣されます。派遣研究員の帰国時にはリサーチカンファレンスを開催します。皆様どうぞご参加ください。



＜リサーチカンファレンスのお知らせ＞

日時：平成24年12月12日(水) 17:00～18:00  
 場所：医学部第5会議室(臨床研究A棟2階)  
 プレゼンター：堀ノ内裕也、吉田守美子、向井理恵

＜派遣研究員＞

- 黒部 裕嗣(心臓血管外科学分野 助教) アメリカ合衆国 エール大学、オハイオ州立大学(2012,9,1～)
- 塩田あすか(臨床栄養学分野 特任助教) ドイツ ミュンヘン工科大学
- 堀ノ内裕也(徳島大学病院薬剤部/医学部研究員) アメリカ合衆国 NIEHS/NIH
- 楠瀬 賢也(循環器内科 助教) アメリカ合衆国 クリーブランドクリニック
- 吉田守美子(生体情報内科学分野 助教) アメリカ合衆国 ボストン大学
- 向井 理恵(食品機能学分野 助教) イギリス レディング大学
- 石澤 有紀(薬理学分野 助教) アメリカ合衆国 ロチェスター大学

■大学院GP「医療系クラスターによる組織的大学院教育」プログラムは平成23年度にて終了しました。

引き続き、教育クラスターによるコアセミナーが開催されています。詳細は開発センターHPにて確認できます。どなたでも受講できます。皆様ふるってご参加ください。

## 4 これからの主な取組

●**第2回医療教育講演会**

日時：平成24年9月10日(月) 18:00～19:30  
 場所：長井記念ホール  
 講師：福島 統 先生(東京慈恵会医科大学)  
 演題：病院を支える人たち、そして地域で患者さんを支える人たち

●**2012 Tokushima Bioscience Retreat**

日時：平成24年9月13日(木)～15日(土)  
 場所：香川県 リゾートホテルオリビアン小豆島

●**第6回「チーム医療入門」蔵本地区1年生WS**

日時：平成24年9月28日(金) 13:00～17:00  
 場所：長井記念ホール 他

●**第4回Simulation医療教育Workshop in 徳島**

日時：平成24年10月20日(土) 9:00～16:40  
 場所：スキルス・ラボ  
 講師：安井清孝 先生(福島県立医科大学)

●**第3回医療教育講演会**

日時：平成24年11月14日(水) 18:00～19:30  
 場所：長井記念ホール  
 講師：細谷亮太 先生(小児科医/聖路加国際病院副院長)  
 演題：いのちの傍らで～おとなとこども～

●**第2回How to医療コミュニケーション教育～医歯薬学における模擬患者参加型教育～**

日時：平成24年12月1日(土) 9:00～12:00  
 場所：スキルス・ラボ  
 講師：藤崎和彦 先生(岐阜大学)

●**学会活動**

●**第44回日本医学教育学会大会**

平成24年7月27～28日(横浜市)

「腹腔鏡下胃切除術の術者研修中における開腹術からのフィードバックの有用性について」

岩田 貴<sup>1,2)</sup>、島田光生<sup>2)</sup>、長宗雅美<sup>1)</sup>、福富美紀<sup>1)</sup>、赤池雅史<sup>1,3)</sup>、徳島大学HBS研究部医療教育開発センター<sup>1)</sup>、外科学<sup>2)</sup>、医療教育学<sup>3)</sup>

「共用試験OSCEによる臨床実習前教育の評価

—項目特性曲線による評価方法—

三笠洋明<sup>1)</sup>、赤池雅史<sup>1,2)</sup>、西村明儒<sup>1)</sup>、福井義浩<sup>1)</sup>、岩田 貴<sup>1,2)</sup>、島田光生<sup>2)</sup>、医学部教育支援センター<sup>1)</sup>、HBS研究部医療教育開発センター<sup>2)</sup>

●**医療教育miniコラム**

「基礎的・汎用的能力」

社会的・職業的自立のために共通して身につける必要がある能力として近年重要視されている。コミュニケーションスキル、チームワーク、リーダーシップ、情報リテラシー、倫理観、市民としての社会的責任、生涯学習力、自己管理能力、問題解決力、論理的思考力、数量的スキル、統合的な学習経験と創造的思考力などが挙げられている。コモディティ化せずにグローバルに活躍できる医療人となるには、専門領域の知識・技能だけでなく、これらの能力が不可欠といえる。

●**お知らせ**

★高度シミュレーション教育への対応をはかるため、平成24年7～9月の期間、医学部第3、第4会議室の改修工事を行っています。

★HPが新しくなりました。取組の詳細等、ぜひご確認ください。  
<http://www.hbs-edu.jp/index.html>